

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年8月12日 (2010.8.12)

【公開番号】特開2005-7166(P2005-7166A)

【公開日】平成17年1月13日 (2005.1.13)

【年通号数】公開・登録公報2005-002

【出願番号】特願2004-159722(P2004-159722)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/06 (2006.01)

G 0 1 V 3/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/06

G 0 1 V 3/10 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年6月28日 (2010.6.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 9】

上の表の右側部分の「比」を参照して、本発明の好適な実施形態に従った 2 つの高調波の単純な比を用いた干渉の補正の計算例を説明する。例えば、プローブ 20 が受信した信号において、 f_0 の相対振幅が 4 . 1、 $3 f_0$ の相対振幅が 1 . 0、 $5 f_0$ の相対振幅が 0 . 5 と仮定する。従って、 $3 f_0$ に対する $5 f_0$ の比は 0 . 5 である。この比を表に反映されている保存された値に対して比較して、制御ユニット 50 が、この場合は、要素 40 が要素 # 1 と同じタイプであることを決定する。受信した信号に対する要素 40 の歪みの影響を決定するために、 $3 f_0$ (1 . 0) の値を $3 f_0 / f_0$ の保存された比 (1 0 . 0) で除すと、0 . 1 になる。この結果を f_0 (4 . 1) の測定振幅から減じると、要素 # 1 による歪みのない補正振幅 4 . 0 になる。この振幅が、プローブ 20 の正確な位置を計算するための入力として用いられる。